

IMF サーベイ

IMF ワークプログラム

IMF、ワークアジェンダで、 経済成長の活性化を目指す

2014年12月11日

- 雇用創出と包摂的成長、IMFの最優先課題に
- 金融政策の正常化の管理が、引き続き重要な課題
- 成長の主な原動力として構造改革を強調

国際通貨基金（IMF）は、世界経済が「新たな凡庸」に陥ることを防ぐために尽力している。このようななか、IMFは、次期の戦略的優先事項を示した新たなワークプログラムを発表した。

11月24日にIMFの理事会が協議したこの行動計画の主な焦点は、包摂的で雇用に配慮した成長の促進となる。新たなワークプログラムは、先進国・地域における金融の正常化の管理、公的支出の質の向上、金融の安定性の保護、及び生産性の向上と成長の強化のための構造計画の実施などの必要性を強調している。

IMFのワークアジェンダに関する協議は年に2回行われ、「[グローバル政策アジェンダ](#)」をIMFのむこう12カ月間の具体的な行動計画に反映させる。グローバル政策アジェンダは、クリスティーヌ・ラガルド専務理事が10月のIMF・世界銀行の年次総会で発表した。

IMFサーベイは、シダート・ティワリ戦略政策審査局長に、ワークプログラムの主な点について話を聞いた。

IMF サーベイ：2014年の年次総会では、低成長と雇用創出の低迷という「新たな凡庸」を防ぐことが、世界経済の喫緊の課題であると強調されました。ワークプログラムではこの問題にどのように対応していますか。

ティワリ： 実際、世界的金融危機から6年経った現在、約2億人が失業しているなど、世界経済は不安な状況にあります。我々は、財政面・金融面での下支えの政策と、回復を加速化させるための構造的政策の足並みをそろえる必要があると考えていま



インド・アラハバードの橋を作る作業員：IMFのワークアジェンダは、インフラ投資の拡大など構造改革がどのように経済成長を促進するかについて分析を進める（写真：Prabhat Kumar Verma/Sipa USA）

す。

IMFは今後数カ月にわたり、インフラ投資の拡大、貿易障壁の改善、税の歪みの軽減、及び金融の深化と金融包摂の促進といった構造改革が、どのように経済成長を活性化することができるかについて、研究を進めていくことになります。こうした作業を、長期的成長を押し上げる財政政策の役割に関する検証で補完します。全てに当てはまる唯一無二のアプローチは存在しないことは明らかであり、我々の分析では、様々な国グループのニーズに焦点を当てていくことになります。

さらに、「[2014年の3年毎のサーベイランス・レビュー](#)」では、IMFのサーベイランスのなかで構造改革という課題にどのように対処できるかについて提言を行っています。我々は今後、こうした提言を遂行していくことになります。「新たな凡庸」が常態化してしまうリスクの打開には大胆な措置が必要であり、これまでと同様、IMFは加盟国を支援していきます。

IMF サーベイ: 経済成長を押し上げるための財政政策の役割に触れられましたが、この分野ではどのような作業を予定していますか。

ティワリ: 次の「財政モニター」では、自動安定化機能の役割、すなわち政策当局の直接介入なく経済活動の変動を相殺する、課税＝所得移転制度の特徴に焦点を当てます。たとえば、自動安定化機能の例として、失業保険や社会福祉、法人・個人の所得税が挙げられます。

さらに、納税コンプライアンスの改善により生産的な支出の余力を生み出すことで、どのように成長を支えることができるかを追求するとともに、財政的に持続可能な方法で投資の経済成長への影響を最大限に引き上げるために、公共投資の枠組みをどのように改革できるかについて検証します。財政政策と成長に関するその他の作業では、財政政策と生産性のつながりといった課題や、公的債務の再編と財政改革が成長にどのような影響を及ぼすかについて分析していきます。

IMF サーベイ: 金融政策も IMF の重点分野です。ワークプログラムにはどのように反映されていますか。

ティワリ: 今後12カ月間にわたり、世界金融危機で明らかになった新たな金融政策をめぐる疑問について検証していきます。たとえば、金融政策と金融の安定性の相関関係などです。その他、為替介入の役割を検証し、様々な状況下にある国々の適切な外貨準備高のレベルの分析のフォローアップ作業も行います。

またIMFは、低所得途上国の、金融政策の枠組みの強化、すなわちその信頼性を高めより反景気循環的で前向きなものするための取り組みの支援を継続して行います。そして言うまでもなく、今後も各国に合わせた政策助言を行うとともに、一部の主要先進国・地域で予定されている、金融政策の正常化の影響とその波及的効果についても研究していきます。

以上に加え、マクロプルーデンス政策、すなわち資産価格バブルと過剰な与信の伸びを封じこめるための政策に関する我々の作業にも、注目していただきたいです。こうした政策がシステミック・リスクの制限で重要であることから、我々はこれに関する包括的なガイダンスノートをIMFスタッフ向けに作成し、これをサーベイランス活動で活用するための準備を進めています。

IMF サーベイ: 金融部門の脆弱性に対処し金融の深化を促進するために現在進めている取り組みを、今後どのように活用していきますか。

ティワリ: 加盟国の経済の健全性をモニタリングするなか、金融部門に関する考察を、我々のスタンダードなマクロ経済分析に一段と適切に取り込むための努力をIMF全体で推進しています。こうしたなかで、我々は関連する分析面での疑問の特定を進めており、試験的にそれぞれの地域の一部の国との4条協議でカバーしていきます。その他、サーベイランスにおけるバランスシートの分析の強化、国境を越える銀行取引のつながりという課題の分析を進めるとともに、新興市場国・地域での金融の深化と金融包摂を支援するために、分析をこれまで以上に提供することになります。

IMF サーベイ: IMFは、低所得国との関係を新たな観点から見直しています。どのような活動を進めていくことになりますか。

ティワリ: IMFは既に低所得国と強く関わっていますが、今後その関係をより深めていく予定です。2015年は「ミレニアム開発目標」の達成期限です。国際社会は現在、人間開発を促すための一連のあらたな目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」に取り組んでいます。IMFは、開発のための融資、そして新たなSDGsの達成を支えるための資源の確保、活用そして管理の最善の方法の分析でその知識を提供するなど、この活動に積極的に貢献していきたいと考えています。

また、IMF支援プログラムの債務上限に関する我々の方針の見直しは、持続可能性を守りながら加盟国それぞれの環境に、より柔軟に対応できるシステムを構築することを目標としています。この見直し作業が最終段階にあります。そして、最後になりましたが、エボラ出血熱の拡大への我々の迅速な対応も紹介させてください。

我々は現在、影響下にある国々への支援を拡大するための措置に取り組んでいます。

IMF サーベイ: IMF の研究の世界的な長期的課題はなんですか。

ティワリ: 大半の国々が加盟する国際機関である IMF は、加盟国の今日・そして明日の経済と金融に大きく影響する可能性のある、分野横断的な世界的課題を注視する必要があります。格差、気候変動、ジェンダーに関する作業は、スタッフの分析作業、そしてこうした問題がマクロ経済の健全性に影響を及ぼす国々の当局との政策面での話し合いに含まれることになります。

IMF サーベイ: ワークプログラムのなかで、クォータ（出資割当額）とガバナンスの問題はどのように扱われていますか。

ティワリ: 2010 年のクォータ及びガバナンス改革の発効が、クォータを基盤とするという IMF の性格を守りその正当性、有効性と関連性を強化するうえで最も重要です。もしこうした改革が 2014 年末までに実現しなかった場合、IMF の理事会は、クォータの再調整の代替案と十分な融資資源を今後も確保するための他の手段について協議する予定です。

関連リンク :

[ワークプログラムを読む](#)

[最新のグローバル政策アジェンダ](#)

[最新の世界経済見通し](#)

[ブログ: 波及効果を管理する](#)

[ラガルド氏: 新たな凡庸を克服する](#)